

# ワーキンググループ実施報告

## 1. 妊娠中の方

日時 ; 個別に聞き取り  
場所 ;  
人数 ; 2人

### 【妊娠中・出産後心配なこと】

○高齢出産のため、胎児の発育について心配している。出生前診断検査も検討したいが高額なため受診することが難しい。

### 【将来の子育てに関する期待や不安】

○3子目で経済的負担が大きくなることへの不安がある。  
○経済的にどれだけかかるのか不安がある。

### 【就労に関して】

○現在産休中で、出産後1歳になったら仕事復帰を考えている。

### 【子育て支援全般について】

○妊婦一般健診検査の助成について、チケット制になっているが、使用方法等十分な説明が欲しかった。  
○子育て世帯臨時特例給付金、保育所・幼稚園入所・入園に関する内容等、子育て家庭に必要な情報をわかりやすく伝えて欲しい。  
○情報伝達方法を工夫して欲しい。C/V/Yテレビ放送を活用して欲しい。

## 2. 子育て家庭の方（にこにこランド参加者）

日時 ; 平成26年3月25日（火） 10:00～  
場所 ; 吉野北学童保育所  
人数 ; 3人

### 【子育てに関する期待や不安】

○子どもは3～4人欲しい。（自分自身が兄弟が多かったので）  
○子育てに関しては、経済面より子育て環境を重視する。

### 【就労に関して】

○フルタイムでの勤務はしんどい。週3日、1日5時間程度の勤務を希望する。

### 【子育て環境について】

- 自分の育ってきた地域と差があり、不便さを感じる。
- 病院・図書館・子どもの遊び場等もう少し充実して欲しい。
- 病院は午前中のみ診察だが、午後や休日の診察もして欲しい。
- 子どもの遊び場としてセンター的なものがあればいい。
- 町内にセンターが2カ所、予約なしでいつでも遊びに行けるところがあると嬉しい。
- 祖父母に少し遠慮があり、子どもを預けにくいと感じることがある。
- にこにこランド等の存在がありがたい。もう少し回数を増やして欲しい。

## 3. 保育士・幼稚園教諭

日 時 ; 平成26年3月25日(火) 11:00~  
場 所 ; 吉野幼稚園  
人 数 ; 6人

### 【子どもの育ちを通して感じること】

- 未就園児親子の集まる場(にこにこランド等)を経験してから幼稚園に入園、保育所にするため、少し集団での過ごし方がわかっている。保護者・子ども同士顔見知りになっているため、園生活に入りやすい。

### 【幼保合同保育を実施して】

- 1クラス20人を超えると集団の力を感じる。
- 職員同士、職員と保護者で捉えや思いにずれのある時は、一つ一つ話し合っ決めて。
- 合同保育を始めるまで、幼稚園と保育所では生活リズムや過ごし方が違ったため、子どもの遊び方も違った。
- 運動会で大きなことに向かって、共通の経験をしたことで子ども同士の関係がより強くなった。子どもの意識の中では、お泊まり保育で変わったように思う。
- 3歳児の午睡時間の取り方が難しい。3歳児については、時期により合同保育の終わる時間(保育所児が戻る時間)を調整する。

### 【子どもの家庭環境等について感じること】

- 子ども任せの保護者(マナー・約束)と細部にわたって指導する保護者が両極端
- 保育者への希望も様々で、気になる所が異なる。
- 保護者の保育の捉えが年々変化し、子どもの育ちより保護者に向けてのサービス業になっているように思う。

### 【子育て支援における課題】

- 未就園児親子の集まる場担当者と保育所・幼稚園の連携を図り、参加している親子の情報共有をする。

#### 4. 子育て支援者（子育てサポーター）

日時；平成26年3月25日（火） 他  
場所；吉野北学童保育所  
人数；7人

##### 【子どもの育ち等を通して感じること】

- 家庭とは違った環境の中で、さまざまな遊びや活動を通して、みんなと共に成長する様子から友達と遊ぶ大切さを学ぶ。
- 小さな集団ではあるが、みんなと共に活動することで、手洗いや挨拶などの生活習慣や集団の中での初歩的なルールが身についている。
- 保護者の方々の情報交換の大切な場所となっているようだ。

##### 【子育てサポーターの活動をして】

- 未就園児親子にかかわるため、子育てサポーターのスキルアップが必要だと感じる。
- 子育てサポーターとして、子育て支援事業に参加できることが充実感につながっている。
- 子育てサポーター自身の子育てを振り返るよい機会になっている。

#### 5. 子育て支援者（学童保育指導員）

日時；平成26年4月16日（水） 10：00～  
場所；吉野北学童保育所  
人数；8人

##### 【子どもの育ちを通して感じること】

- 学童保育所は、学校、家庭とは異なる場所のため、子どもの緊張がとけ言動が学校とは大きく違うため、対応にとまどうことがある。
- 子どものコミュニケーション力や、社会性を養える場が不足しているように思う。
- 子どもたち自身が悩みを相談をする場が限られている。

##### 【子どもの家庭環境等について感じること】

- 保護者によっては、仕事と家庭生活で精一杯で、子どもへの接し方が安定していないこともあり、子どもも落ち着かない。
- かつて家族（祖父母等）や近所の人々が担っていたような、子育ての悩みの相談の場がなくなりつつある。

##### 【仕事と子育ての両立支援について】

- 働くことで生じる悩みについて、女性が話せる場が少ない。
- 多忙なため、子どもへの意識が離れがちになる保護者もいる。

#### 【子育て家庭への支援】

- 学童保育所が子どもの社会性を養い、保護者への子育て相談に応じられるように、指導員のスキルアップを行う。
- 特別な支援を必要とする子どもをはじめ、個々に応じて、支援の内容が異なる。その対応の仕方に悩む。子どもの支援等、具体的な話し合いを進めていく。
- いじめや不登校に直面した時、相談することができず、手立てを見つけられない保護者もいる。
- 子どもに対する相談体制に関して、誰が、どういう立場で、児童、保護者、学校と関わっていくか難しい。指導員が子育て相談を受け、各機関とコーディネートすることができるよう、子育ての専門家としての指導員の専門性を向上させていく。
- 子どもの育ちを支えるため、小学校や各種機関と連携する必要がある。
- 緊急で保育サービスを要する状況になった時（保護者の入院、通院、親の介護など）の子育てサポート支援が不十分である。





